

2022 もてぎカートレース プリーフィング資料

2022.10.30
競技長

資料には、本コースにおける注意事項と、その他の特に注意いただきたい事項を抜粋して記しています。関係する規則書とあわせ、充分にご確認ください。ジュニアの方にはエントラント及び保護者の方からのご説明をお願い致します。

【ダミーグリッド・ピット】

- 1) ダミーグリッドへの移動は 6 番ピットから入場し、走行前チェックを受ける。
- 2) ピット作業エリアは、1 番ピット～5 番ピット前のコンクリート上。
- 3) ダミーグリッドは 7 番ピット～16 番ピット前までのコンクリート上。
(アスファルト部分はピットロードです。アスファルト部分での作業は行わない)



- 4) ピットロードに設置されたシケイン通過後は加速をしない。シケインへの接触は、徐行違反としてペナルティを課す場合がある。

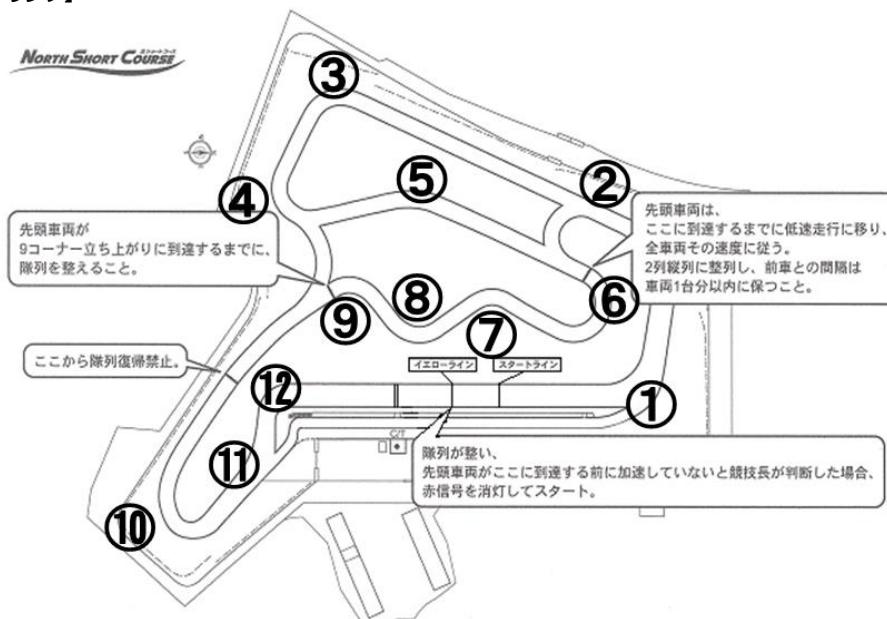
【タイムトライアル】

- 5) タイムトライアル開始後にピットインした車両はすべてパークフェルメに入らなければならない。
(ピットインした車両は再トライすることはできない)

【エンジンスターター】

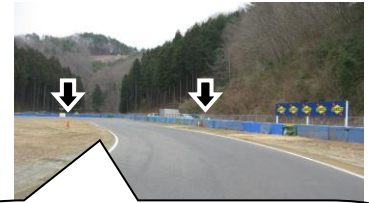
- 6) エンジンの始動については原則、セルスターターを使用すること。セルスターターの不良により外部スターターを使用する際はピット作業エリアで使用しなければならない。

【スタート・ローリング】



- 7) コースインする際はイエローラインカットに注意。
(予選・決勝ヒートのローリングラップのコースイン時における危険回避はこの限りではない)
- 8) スタートの合図は灯火信号で行う(赤点灯→消灯でスタート。消灯されない場合はローリング継続)。
- 9) スタートが合図される前に、約 1～2 周のフォーメーションラップを行なう(他の車両を巻き込む程のウェービングは禁止)。
ダミーグリッドからスタートした車両はスピードを落とし 2 列に整列し隊列でフォーメーションラップを行う。
全車が加減速を行わず一定の速度を遵守し、イエローラインまで加速してはならない。
- 10) フォーメーションラップ中の隊列進行については、ポールとセカンドの車両に、フォーメーションラップ中の速度をコントロールし隊列を整える義務が生じるが、それらの車両が停止または遅れてもフォーメーションラップは続行される。その際は先頭にいる者には同様にフォーメーションラップのペースを保つ義務が生じる。
- 11) 何らかのトラブルでフォーメーションスピードについて行くことが出来ない場合、あるいはスタート時に正常な加速が出来なくなった車両は手を挙げて後続にアピールし、速やかに隊列から外れて最後尾につかなければならない。
- 12) フォーメーション中 2 列目以降の後続車は、前車との間隔を車両 1 台分以内に詰め、先頭車両が 9 コーナー立ち上がりに到達するまでに隊列を 2 列に整え、そのまま 2 列でスタートまで走行すること。

- 13) フォーメーションラップ中に隊列のペースや整列を乱す行為（フライング、幅寄せ、プッシング、悪質な加減速など）があった場合は、当該車両に対して白・黒旗が示される。それが繰り返された場合は、最後尾に繰り下げられる。
なお、ローリング中の白・黒旗は各ヒートスタート後に出される白・黒旗の回数にカウントしないものとする。
- 14) フォーメーションラップ中にコースをショートカットすることは禁止される。
- 15) スタート時、最終コーナー立ち上がりからコントロールラインまでの間に隊列形成のための白線が二本引かれている。スタート合図が出される前にこの白線を跨ぐことは禁止される。跨いだ場合、ペナルティの対象となる場合がある。
- 16) フォーメーションラップ中に自らの前方のポジションの車両がトラブル等で不在の場合、スタートまではその分の間隔を空けて走行しなければならない。前列に詰めてスタートした場合はフライングとなる。
- 17) スタート後、先頭のカートが1周するまでにスタートラインを越えないカートは、そのヒートに出走することは出来ない。
- 18) ローリングの開始からスタートまではピットウォールエリアは立ち入り禁止とする。
- 19) ローリング中に何らかの理由で自己のポジションから遅れてしまった場合、スタートライン～10 コーナー手前に設置されたパイロン位置までの区間であれば、前車を追い越して自己のポジションに復帰することが出来る。パイロン位置を過ぎてスタートラインまでの区間で自己のポジションに復帰した場合は、当該ヒート失格となる。また、隊列復帰禁止区間でも、自分がローリング周回遅れになって、隊列に自分を追い越させる形で自分のグリッドに戻ることはできない。
この場合、ドライバーは黒旗の対象となります。ローリングに大きく遅れたドライバーには、白地に赤の×印のボードが提示される場合がある。
対象者は隊列復帰禁止、最後尾からのスタートとなる。
(ミススタートとなった場合も解消されない)
- 20) ローリングの隊列が10 コーナー手前のパイロンまで来た時点でピットロードエンドをクローズする。スタートが切られた場合はピットスタートできない。



隊列復帰禁止区間のパイロンはSUNOCO看板過ぎの両サイドに設置される。

【信号旗】

- 21) 赤旗が提示された場合は、直ちに追い越し等をせず徐行し、ホームストレートまで安全に走行したうえで、オフィシャルの指示に従い、1 コーナー手前のパイロンで示された停止位置のコース左右に停止すること。
- 22) オレンジポール旗は最終周では使用されない。ただしヒート後の車検でペナルティを受ける場合がある。
- 23) 信号旗の提示場所（参考）

信号旗	場所
黒旗	コントロールライン付近
ミススタート旗	3 コーナー手前
白黒	コントロールライン付近、6 コーナー
白地に赤バツテン	6 コーナー

【車両の回収】

- 24) ヒート後のカート回収は最終ヘアピンコーナーから2 コーナーまではピットクルーの方で行なうこと。放送およびオフィシャルの合図の後、速やかに回収を行う。それ以外の個所に関してはレッカー車が回収を行なう。
- 25) ピットロードをレッカー車が通過することがありますので注意する。
- 26) ヒート中の停止車両はドライバーも回収を行う（車両をオフィシャルに任せて放置しない）。

【車検・計量】

- 27) チェッカーを受けた後は全車車検場に入るようにする。

【その他】

- 28) データロガーの設置場所はピット出口側のゼブラゾーンとする。
- 29) 公式練習中の音量の確認は、コントロールタワーのピット側で行う。
- 30) 給排気消音器の脱落
走行中（公式練習、タイムトライアル、予選、決勝）の給排気消音器の脱落は、次の通り取り扱う。
①脱落して即座に安全な場所に移動して停止した場合、および徐行してピット（車検場）に移動した場合は、当該ヒート失格とする（公式練習除く）。
②脱落して走行し続けた場合は、レース失格とする。
- 31) 捨てバイザーの使用、タイヤへの加工は禁止される。
- 32) ドライバーサインは必ず行なうこと。ドライバーサインは、頭上高く手を上げることを義務付ける。
オフィシャルが合図不履行と判断した場合にはペナルティの対象となる。
- 33) Junior MAX クラス、YAMAHASS ジュニア、YAMAHA カデットオープンクラスのドライバーは、ストップした場合など、車両から降りることができない（降りた時点でリタイアとなる）。再スタートが自力でできない場合はその時点でリタイアとなる。ただし、緊急の危険回避と判断される場合はオフィシャルがカートに触れても、再スタートが可能な場合がある。
- 34) 火気の取り扱いには厳重に注意すること。（タバコ、溶接、サンダー等）。違反者はドライバーに対しペナルティが課せられる場合がある。
- 35) エンジンの始動は、必ず定められた場所・方法で行なうこと。（不要な空ぶかしは行なわないこと）
- 36) 予選ヒート、決勝後のパルクフェルメでは重量計測前の水分補給を認める。ただし、補給する際の水分容器は600ml以下とする。計測後の水分補給後の再計測は認められない。

以上